平成２９年度学力向上を図るための全体計画

（奥多摩町立氷川小学校）

○ 憲法・教育基本法等関係法規
○ 東京都　　教育目標
○ 奥多摩町　教育目標

学校教育目標
「のびのびと逞しく生きる子」の育成をめざし
　○　自ら進んで学ぶ子
　○　仲良くやさしい子
　○　健康で明るい子
「生きる力」を育てる
　・学ぶ力・豊かな心・健やかな心身の向上

○ 時代の要請
○ 学校・地域の実態
○ 地域・保護者の願い
○ 児童の願い
○ 教師の願い

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

○ 進んで学び続ける態度を育てる（興味・関心を高める教材や学習環境、個々の問題解決・探求を支える学習の工夫）
○ 基本的な知識・技能を使う力を育てる（個に応じた見取りと目標・内容・指導方法の設定、習熟機会・指導法の工夫、学習習慣）
○ 考えを広げ深めていく力を高める（言語活動、分類・比較・関連や構想・論理力の育成、深め合う学習・振り返りの習慣と工夫）

各教科の指導の重点

○ 基礎･基本の定着と問題解決的な学習過程の重視
○ 一人で学ぶ力と共に学ぶ力の育成
○ コミュニケーション能力･表現力を高める指導の工夫
○ 地域教育資源の活用

総合的な学習の指導の重点

○ 自分の興味・関心を調べたり探究したりする力の育成
○ 教科横断的・総合的な学習や創意工夫ある活動の実施
○ 奥多摩の人・自然・文化に関わる学習の重視
○ 体験を重視した課題解決学習の推進
○ 国際理解など、本校の実態に応じた活動の充実

外国語指導の重点

○ ALT 講師との活動を通して、積極的に外国語を聞いたり話したりすること。
○ 簡単な英語を使ってコミュニケーションを図ったり、読んだり、書いたりすること。

進路指導の重点

○ 中学校との連携の充実
○ 様々な大人とのふれ合いや体験活動をもとに、自分の生き方を考え、深める。

本校における「確かな学力」
～ 自ら進んで学び続ける子～

未来に向い共に生きる力、課題に挑戦し解決する力
学習指導要領に示された内容の確実な定着

問題解決力・思考力
（読み、聞き、考え、分類、整理、関連づけ、論理立て判断し、表現する力）

基本的な知識・理解
（基礎的知識・技能、学習内容の定着・活用力）

学習意欲、主体的探究姿勢

◇基本的な生活習慣、学習習慣　◇学び方
◇語彙、言葉活用力　◇豊かな生活体験（追求、探究体験）
◇豊かな心　◇健やかな体　◇安心できる人とのかかわり

学校経営方針（授業改善推進上の要点）◎は重点項目

◎「自ら試し、考え、わかる、できる」学習体験の保障
○　深い教材研究と明確な指導目標に基づく授業の推進
○　興味・関心と認知特性に応じた多様な学びの保障
○　読解力（言語力、分類・関連・論理力）向上の工夫
○　学習活動における育成すべき資質・能力の焦点化
◎　主体的・対話的で深い学びの推進
　・　本時の目標の明示と興味・関心・意欲を高める工夫
　・　既習事項の活用と学習の見通しをもたせる工夫
　・　一人一人の自力解決（問題解決・探究過程）の保障と支援の工夫
　・　考えを深めるふり返りや自己評価過程の工夫
　・　考えを広げ、修正・活用させる「学び合い」の工夫
◎　個に応じた基礎的・基本的知識・技能の習熟の工夫
　・　一人一人の変容に応じた指導方法の工夫・改善
　・　家庭学習やｅラーニング等多様な習熟の機会設定
　・　発達段階と習熟度に応じた個々の適切な目標・教材・学び方の選択・保障
　・　学校内外の指導者の協働による多様な指導

道徳教育の指導の重点

○ 様々な体験活動を通して、豊かで逞しい心、道徳的判断力、実践意欲、態度を育てる。
○ 様々な人々との関わりを通して、規範意識を確立し、共に生きる力を育てる。
○ 道徳授業地区公開講座を通して、教育力を高める。
○ 自然や動植物を大切にする態度を養う。
○ いじめの未然防止に資するいじめをしない態度の育成。

特別活動の指導の重点

○ 自発的・自主的活動を創り出す態度・能力の育成
○ 異年齢集団活動を通した豊かな人間関係の育成と、集団への所属感の深化

生活指導の重点

○ 人権と個性を尊重し、相手を思いやり、人と豊かに関わる心の育成
○ 自分らしさをもち、たくましく生活する力の育成
○ 基本的生活習慣及び社会的規範意識の確立
○ 家庭・地域・関係諸機関と連携した健全育成
○ 学校いじめ対策委員会を活用した、いじめの組織的対応

本　校　の　授　業　改　善　に　向　け　た　視　点　　◎は重点項目

指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	校内における研究・研修の工夫
○本時のめあて明示、板書の充実、ノート指導の徹底 ○言語能力を高め、読み解く力を向上させる授業の工夫 ◎体力向上（一学級一取組の実践・運動の日常化・体育授業の改善） ○習熟度別学級編成、T・T、取り出し等指導形態の工夫 ○数直線、ラーニングマップなどの思考ツール、学び合いツールの活用 ◎調査、探究や深める、広げる学習へのＩＣＴ機器（iPAD・タブレット等）の活用 ◎メタ認知力を高める自己評価･相互評価（シート、作文）の工夫 ○支援員（教育、理科、図書）、巡回指導教員、教育相談室、SC、SSW、発達心理士等の活用 ○英語教育推進リーダーの指導案の活用、英語教育推進リーダー、ALT との連携	◎CDTⅢ･ベーシック診断テスト等の調査を活用した個の課題と変容の見取り ○ＰＤＣＡに基づく評価サイクルの確立 ◎観点別評価（1 時間 1 観点） ◎形成的評価による指導と評価一体化 ○評価規準に基づく評価 ○高めたい資質･能力の評価の工夫	◎進度に合わせた学習プリントの作成 ◎個に応じたｅラーニング環境の活用（ベーシックドリル･ｅライブラリー等） ◎家庭学習習慣の形成（音読・漢字練習・計算練習等） ◎外部講師の招聘・活用 ○地域の施設、人材の活用 ○保護者の学習参加･支援 ○保護者との連携指導	◎考える道徳・議論する道徳の推進 ◎実践授業・検証 ○道徳の新しい価値項目への対応 ◎道徳科の評価方法の検討 ○教材・教具づくり（含デジタル化） ○外部研修成果の還元 ○言語能力向上 ○ＯＪＴの推進 **教育課程編成上の工夫** ◎オリパラ教育の推進 ◎学校図書館の活用 ◎チャレンジタイムの工夫 ○サマースクール（3～6 年）の実施 ○漢字・算数検定の実施 ○学力診断テストの実施 ○外国語活動授業時間の確保

国語

実　態

効果

総　　合：・**総合的に**全国**平均を上回る**。（２年・６年）
意　　欲：・学習**意欲高い。**進んで取り組む、または取り組む子が多い。（２・３・４・5・６年）
　　・叙述に即して登場人物の心情を考えて動作化を**楽しみ、創造的に活動**できる。（４年）
話す聞く：・**日直スピーチ**：（３文程度話し身の周りのことを伝え、質問に答える。１-２年）
読　　む：・**読み聞かせ･読書好き**。１学期一人平均５５冊読んだ。（１年）
　　・**読む能力全員高い**。（３年）
　　・**要点・要旨をとらえる力がついてきた**。（５年）
書　　く：・流れを分かりやすく書くことができる児童がいる。（３年）
　　・**文章に書き慣れ類型的に書ける**。（６年）
言　　語：・**漢字**の読み書き全国平**均を上回る。**（２年）
　　・昨年**漢字検定**６級（**５年生までの漢字**）**合格６／７**。（６年）

課題

話す聞く：・**話す・聞く能力低い**。普段の様子と同じ。（３年）
読　　む：・**個人差。**（**音読**。**説明文要旨の読み取り**に課題。４年）（**大きい**。６年）
書　　く：・（全国**平均を下回る。内容や表現力に乏しい**。６年）
　　・**個人差。**（ひらがなに時間を要する１名。１年）（**書く力。**３・４年）（**同内容の重複**。３年）
　　学力調査（**到達不十分数名**。２年）（**普段の様子と同じ**３年）（**差大きい**５年）・
言　　語：・**拗音**や**促音「は」「を」「へ」**要指導（１年）
　　・促音表記できない児童。（３年）**漢字習熟個人差**。（４年）（**個人差**大５年）

工夫改善

意　　欲　○初発の感想から授業を計画（３年）
言　　語　○繰り返し指導・練習

・毎日宿題（助詞・拗音・促音・ひらがな・カタカナ。1年）（言葉。２年）（漢字１・２年）
・小テスト（週１～２回。1年）（週１回。２年）
・ノート指導（助詞や拗音、促音。1年）
・漢字ノート（毎日一文字。基本的な筆順や簡単な文章）（２年）
○基本的な文法指導（２年）
○タブレット端末活用。（ローマ字定着。３年）
○個別の実態の見とりと適した学習方法を指導。（５年）
○語彙力をつける指導（工夫して漢字・言葉に関する学習を継続。６年）
話す・聞く○日直スピーチ（身の回りの事・社会での出来事など/はじめ、なか、おわりの意識。２年）
○発問の工夫（話す・聞く必然性を持ち相手を説得したくなる。３年）
○伝え合う場面設定（自分の考えをもたせ、その根拠や理由を明確にさせて。５・６年）
○個々の課題の見取り（グループや学級で考えるため個々の意見や考えを持たせる。６年）
読　　む　○図書室・司書教諭との連携（読書活動推進。２年４年）（生活科と関連付け科学読み物４年）
○毎日の宿題（読解問題も繰り返し指導。２年）
○読みの視点を明確化。何を読みとればいいか分からせる。（３年）
○単元を貫く言語活動。言葉の活用力を育む。（特に説明的な文章。４年）
○ICT 機器・タブレット端末、
・（即座に『視覚化』、『動作化』、『共有化』できるように。４年）
・（教科書のものはできるだけ具体物、図鑑やタブレットなどで提示。1年）
・（読んでいる部分が分かる工夫。３年）拡大コピーなども
・（視覚的に理解できるようにして、叙述を考えさせ読解を深める。５年）
○表現方法や焦点化場面に注目させる指導をもとに授業展開を計画。適確な読み取り６年）
書　く　　○文の書き方定型を教室内提示（いつでも確認できるように。３年）
○日記の中で書き方指導（原稿用紙の使い方等。３年）
○具体的な文章技術の段階的指導
・構成表などを用い整理して書く等、（５年）
・日常的な文章に活かす練習（６年）
伝統・オリパラ
○漢字やカタカナの学習の際、日本の文化としての成り立ちなどにも着目させる。（1年）
○説明文や読書においてオリンピック、パラリンピックに関連させ学習。（４年）
○教材。我が国に伝わる伝統や文化の良さを知り、大切にしようとする心情を育てる。（５年）
評価の工夫
○実態に即した評価方法（２年）
○ポートフォリオ評価（作文、ノート１年）（様々な学習場面で考えの根拠を明確化させ発言や筆記２年）
○自己評価（発言やノート、ワークシート２年）・（振り返りカードや自己評価カード３・４・５、６年）
○相互評価（1年）（発言、ノート、ワークシート２年）（発表、作文・感想文交流、音読３年）（５・６年）
○観点別到達度把握（単元テスト１．２、３、４年）（ＣＤＴテスト１、４、５年）
○形成評価による理解状況把握（小テスト・プリント１．２、４年）ベーシックドリル（言語や漢字２年）
○補助簿（週案簿とリンク）（４年）
○学習計画をもとにした個人内評価。（５、６年）

算数

実　態
効果
意欲：・高い。（習熟度に関わらず。３年）（４・５年担）（真面目に取り組む。６年担）（進んで発表が多い。６年）全体的に早く進ませたい児童多い（３年）
考え：・文章題は全員キーワードになる言葉に注目して立式し答えを出せる（1年）
・全国平均を上回る。（３年）
・図形から考えを読み取れる児童数名。（５年）
・文章題、図や式を使って考え説明できる児童多い。（６年）
技能：・基礎的計算は定着（たし算、ひき算全員.1年）（３年）（おおむね５年）（確実な児童が多い６年）
理解：・＜基本的内容＞（総合平均上２年）（ほぼ３年）（ほとんどがほぼ４年）（確実な理解多い６年）
課題
意欲：・じっくり取り組みたい児童。（２名。３年）（2名。４年）丁寧な取り組みに時間必要。（４年）
・じっくり考えることが少ない。（５年）
・環境に配慮が必要な児童（１名。４年）・苦手で自信なく始めからあきらめる児童（数名。５年）
技能：・個人差＜基礎的な計算＞（時間必要１名１年）学力調査未到達（たし算・ひき算１名、三口計算３名２年）（時間・長さ計算数名２年）（時間必要児童３年）（習熟に大きな差４年）（九九が４分の１。４年）（四則計算５年）（わり算苦手多い。５年）（四則混合計算６年）（個別指導必要数名６年）
・＜その他＞（「どちらがどれだけ」など難問半数近くに課題。1年）（単位表現２～３名１年）（分度器や三角定規の利用など数名４年）小数のかけ算わり算など基礎的な計算の理解や技能に課題。（５年）CDT から「図形の求積」に課題。（５年）
・＜既習事項をもとに，計算の仕方を考える＞苦手な児童が多い（５年）
・＜文章題＞（苦手意識をもつ児童。取り組む前からできないと感じてしまう。３年）
・＜活用問題＞（習熟に差、苦手な児童が多い。３年）（苦手な児童、時間がかかる。４年）
理解：・個人差（計算のきまり３年）（平行四辺形やひし形４年）（総合正答率 50%以下の児童５年）
・（「時こくと時間」５名。長期的指導必要３年）（理解に時間を要する児童多い５年）（単位換算苦手多い６年）（ＣＤＴⅢは、単位あたりの量と小数の計算平均下６年）
要因・必要とされる方策
・生活体験不足。（３・４・５年）
・課題解決学習（場面設定３年・４・５年）
・課題把握力（正しく読み取る力育成。３・４・５年）（課題を明確に理解させる指導。３年）
・既習活用力（系統的考え習得３・４年）（既習確認時間５年）（計算方法の既習に基づく理解６年）
・活用問題指導時間確保。（３・４・５年）（柔軟な考え６年）
・習熟度別指導充実。（３・４年）・個別指導充実。（５・６年）・基本的内容習熟時間確保（６年）
・算数における自己肯定感向上。（５年）
指導の工夫
○習熟度別指導グループ編成。（レディネステスト実施３・４年）
○既習活用力（確認時間確保５年）（既習事項掲示活用３・４・５年）（導入時関連問題提示３・４年）
○確実な既習理解（復習６年）
・習熟度編成を授業時間以外も活用（３年）
・適宜問題演習時間設定（６年）
・計算練習（位取りに注意復習２年）（復習６年）
・チャレンジタイム活用（基礎的な計算力完全習熟１年）（集中力を養う百マス引き算２年）
・授業時間以外含家庭学習の個別指導・反復練習継続。（３・４・５・６年）
○学び・高め合いの設定・充実。（根拠説明で自己理解を深め、学び合いを促進１年）（ペア・グループ等。考えを伝え学び合う場設定３・４・５年）（授業展開を工夫し多く６年）
・＜手がかり、ツール、イメージ、学び方＞
・図に表す力を育て、多角的に課題をとらえさせる。（３年）（４年）（５年）
・具体物を使い、日常生活と関連付けさせる。（５年）
・実物投影機を使って作業を見せる。（３年）（４年）（５年）（６年）
・図をもとに、数同士の関係性を理解させる。（６年）
・文章題に取り組む際に、キーワードに着目させる、絵に表す、具体物を操作する等の指導をとおして、文章が表す状況を頭に思い浮かべながら読む力をつける。（1年）・文章問題へ多く取り組ませ、立式の根拠となるキーワードをはっきりさせていくようにさせる。（２年）
・キーワードに着目し、数の関係性について理解させる。（３年）（４年）（５年）
・単位への関心を日頃から培うように意識しいろいろな場面や問題に取り組ませる。（２年）

・東京ベーシックドリルを活用して、個別支援の充実を図る。（６年）
・e-ライブラリを活用し習熟。（1・3・4・5・6年）・e-ライブラリー、ＰＣやタブレット活用。（２年）
・ICT 機器を用いながら、即座に『視覚化』、『動作化』、『共有化』できるような学習活動に取り入れる。（４年）・ICT 機器を用いながら、視覚的に理解できるように指導する。（５年）
・タブレット端末やデジタルコンテンツを活用で理解を深めさせる。（３年）（４年）（５年）（６年）
・オリンピック競技と関連させて興味や実感をもたせる。（大きい数や小数、面積など４年）（円周や割合など５年）（速さや重さなど６年）（時間や長さなど ３年）
・オリンピック競技で使われる小数を扱うことを通して、数の理解を深める。（４年）

評価の工夫
・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫（２年）
・指導者間での評価の情報共有。（３年）（４年）（５年）（６年）
・小テストやプリントによる学習理解状況の把握（２年）
・学習意欲の向上を目指した、形成的評価。（３年）（４年）（５年）
・形成プリントやワークテストを活用した評価。（３年）（４年）（５年）・計算カードなどで繰り返し評価。（1年）・計算ドリルや学習プリントの活用による学習。（６年）
・単元ごとのテストだけでなく小テストを活用。（４年）
・東京ベーシックドリルの活用と診断テストによる評価の把握（２年）○東京ベーシックドリルの診断テストによる評価の活用。（３年）（４年）（５年）（６年）
・単元まとめの観点別到達度テストによる学習理解状況の把握（２年）（６年）・ＣＤＴテストを活用した学習達成度の把握（1年）（４年）・算数検定やＣＤＴテストによる当該学年の学習達成度の把握。（２年）（５年）（６年）
・スモールステップの振り返りカードの活用。（３年）（４年）（５年）
・児童の相互評価の活用。（1年）（４年）（５年）友達同士で教え合い、学習の理解度を相互評価させる。（５年）（６年）
・補助簿（週案簿）の活用（３年）（４年）（５年）
・＜パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価＞児童の発言やノートによる評価の活用。（２年）（６年）

道徳

・児童の関心は高い。（４年）(5 年)
・よく考えて、自分の考えをもてる児童は多い。（１年）
・こうあるべきということは頭では分かってはいる(１年)
・教材から「こうあるべき、こうした方がよい」ということを考えられる児童は多い(２年)
・「命の日」の取り組みでは、児童が課題意識をもって考えることができた。（３年）
・一元的な価値は考えを深めることができ、その価値観の重要性も理解している。（４年）(5 年)

・テーマを**自分の課題としてとらえることが難しい**児童がいる。（４年）(5 年)
・学習活動によってはなかなか**身近な問題、課題**と捉えられない児童もいる。(6 年)

・まだまだ自己中心的な面が強く、実生活に理解が反映されていない場面がみられる。（１年）
・友達に左右される場合がある。（２年）
・実践していくことには課題のある児童もいる。（２年）

視点			低学年	中学年	高学年
授業改善	＜指導技術＞	ワークシート	・イメージしやすいワークシートに書いたことを発表できるような工夫。（１年）（２年）	・計画的に年間を取り組み、ワークシートを使用。（４年）	
		役割演技	・役割演技を活用で、実生活に活かす。（１年）（２年）		
	＜自分のこととして考える道徳＞		・自己の生活場面に合わせて考えられる身近な教材。（１・２年）	・生活経験に合う資料(３年) ・身近に感じる題材。（４年）	・日常生活の考えを生かすことができるような教材や発問。(5 年) ・教材から離れ身近な自分の問題として考えられるような発問。(6 年)
	＜議論し多面的多角的な見方を養う道徳＞		・互いの相違を知ることのできる感想や考えを交流する時間を設定。（２年）	・「考える道徳」「議論する道徳」に向け、意見を発表する場を多く設け、交流の時間を増やす。（３年） ・モラルジレンマの教材を適宜取り入れ、児童同士の話し合いを促す。（４年）	・それぞれの立場で考えたことを発表し議論を重ね、道徳的価値観を培う。(5 年) ・それぞれの考えを話し聞く話し合いの学習の機会を設定。(6 年) ・友達の考えを聞き、考えを深めることの大切さを感じさせる。(6 年)
	＜オリパラ教育＞		・オリンピック、パラリンピックの選手の題材（希望と勇気、努力と強い意志）。（１・２年）	・オリンピック・パラリンピック教育（社会貢献意欲、他者を思いやる心）（３年）	・パラリンピック等で活躍する人物を知る活動（諦めずにがんばり抜くこと）。(6 年)
指導計画の見直し					
評価	方法	シート等	・感想や考えを書くワークシートの工夫と活用(１年)（２年）	・思考や行動の変容を見取るポートフォリオ(３年) ・ワークシートの活用(４年)	
		相互評価	・互いの感想や考えを伝え合い相互評価の活用(１・２年)	・個人の考えを全体で取り上げ、評価していくことで意識付けを行う。（４年）	
		自己評価			・自他の心情の振り返りや共感の深さを中心にした自己評価。(5 年) ・振り返りの深さを中心にした自己評価。(6 年)
	積み上げ	授業時の変容	・ワークシートのファイリングにより変容を見取る。（１年）（活用２年）	・ワークシートを取り置き、成長を確認する。（４年）	
		日常の道徳性		・授業で扱った価値の普段の生活での変容を自己評価させる。（３年） ・いろいろな生活場面での行動や活動の道徳性を評価する。（４年）	